

たぶんかきょうせいしゃかいづくりすいしんじぎょうほうこくしょ  
多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 委託業務名・概要

(1) 業務名

子ども達から広がる多文化共生

(2) 概要(事業の要約・事業の目的など)

犬山市の在住外国人が多数住む楽田地区を中心に、市内の随所で、在住外国人の子ども達との交流の場を繰り返し作り、多文化に触れ、理解し合う環境をつくる。

同時に、子ども達を通じて大人(外国人同士・保護者・近隣地域の住民)同士の交流の機会をつくり、ひいては在住外国人の居場所、地域参加へのアプローチとする。

交流を深めることで在住外国人の事業を把握し、今後の支援策につなげることができる。

2 実施事業について

(1) 実施時期 平成19年7月1日(日)～平成20年2月29日(金)

(2) 実施地域 犬山市

(3) 事業の具体的内容

子どもから広がる多文化共生 「一泊二日DE外国のお友達と仲良くなろう」  
平成19年7月28日(土)～29日(日) 楽田ふれあいセンター  
・犬山及び近郊の小中学生と外国籍の子ども、小牧市のブラジル人学校「コレジオ・ドンボスコ」の子ども達の一泊二日の宿泊交流  
〔民族音楽や民族舞踊・各国の料理づくり・お茶・折り紙・習字など竹細工、スイカ割り、流しそうめん等を体験〕  
・保護者、地域住民も参加しての夕食交流、盆踊りも。  
<外国籍子ども32人、日本の子ども43人、外国籍大人18人、保護者及び近隣住民70人 総163人>

子どもから広がる多文化共生 「レッツ! アフリカンドラム」  
平成19年10月13日(土) 犬山市健康館さら・さくら  
・アメリカから来日中の多民族ルーツのジャンベチームを迎えてのミニコンサート、ジャンベと踊りの体験。  
・アメリカの子ども達とトーク、アメリカでの生活を聞いた。  
<外国籍の子ども7人、子ども30人、外国籍大人4人、保護者及び近隣住民48人、総89人>

もり あそ くりす もり はろ う いん た ぶん かきょうせい  
森と遊ぼうIN栗栖「森でハロウィン」(多文化共生)

へいせい ねん がつ3か しゅく いぬやまし やがいがつどうせんたー くりすいったい  
平成19年11月3日(祝)犬山市民活動センター・栗栖一帯

- いぬやま しぜんゆた くりすちく こ たち ぐるーぶわーく をし、 なかま  
・犬山の自然豊かな栗栖地区で子ども達がグループワークをし、仲間づくり。
- にほん こ がいこくせき こ しぜんたいけん きょうど つた  
・日本の子も外国籍の子もいっしょにものづくりや自然体験をし、郷土に伝える伝説の寸劇鑑賞もした。
- はろ う いん おはなし きいた  
・ハロウィンのお話を聞いた。
- こうほう しょうがっこう 3ねんせいいじょう はいふ しこうほうし ちいきじょうほうし けいさい  
・広報として、小学校を通じ3年生以上へ配布、市広報誌や地域情報誌への掲載、犬山市、近隣市町の公共施設へチラシ配布を行った。

さんかしゃ がいこくせきおやこ にほん おやこ ぼらんていあ すたっふ にん  
<参加者：外国籍親子、日本の親子、ボランティア、スタッフ56人>

こ ひろがる たぶん かきょうせい みんぞくいしょう きてこうりゅう  
子どもから広がる多文化共生 「民族衣装を着て交流しよう！」

へいせい ねん がつ にち にち いぬやまこくさいせんたー  
平成19年12月8日(土)～9日(日)犬山国際センター

- いぬやま こくさいこうりゅうふえすた ふるいで かいじょう みんぞくいしょう しちやく  
・犬山の国際交流フェスタであるフロイデまつりを会場とし、民族衣装を試着し、民族の踊りを楽しみ、来場者とのふれ合い、在住外国人同士のふれ合いを持った。
- ざいじゅう ばぐらでしゅじん ちゅうこうせいぼらんていあ きょうりょく さいくろんひがい ため  
・在住のバグラデシユ人に中高生ボランティアが協力、サイクロン被害の為に募金活動をし、約27,000円を寄付。

ふるいで さんかしゃの にん こーなー500人  
<フロイデまつり参加者延べ3500人、うちコーナー500人>

こ ひろがる たぶん かきょうせい かなでよう はーもにー  
子どもから広がる多文化共生 「奏でよう！みんなでひとつのハーモニー」

へいせい ねん がつ にち ひ がくでん せんたー  
平成20年2月17日(日)楽田ふれあいセンター

- おとな こ いっしょ いろいろな じゃんる わだいこ ふあるくろーれ ふあー  
・大人も子どもと一緒にいろいろなジャンル(和太鼓・フォルクローレ・フォークソング・マンドリン等)のミニコンサート
- かくしゅみんぞく がつき たいけん わだいこ かんこくだいこ まんどりん しゃみせん けーな  
・各種民族楽器の体験(和太鼓・韓国太鼓・マンドリン・三味線・ケーナ・サンポーニャ等)
- せかいがこく ぶらじる べる いんどねしあ ばんぐらでいしゅ にほん  
・世界各国(ブラジル、ペルー、インドネシア、バングラディシュ、日本)の

おやつでの 交流タイム

- がいこくせき じゅうみん ちゅうしん ごみぶんべつげーむ  
・外国籍の住民を中心にゴミ分別ゲーム
- がいこくせき こども にん がいこくせきおとな にん こども にん きんりんじゅうみん にん  
<外国籍子ども18人、外国籍大人24人、子ども42人、近隣住民57人、総141人>

あいちきた ほうそう しみんかつどう しょうかい ばんぐみ そうぞう もり  
愛知北FM放送[市民活動を紹介する番組：創造の森]

へいせい ねん がつ にち ねん がつ にち  
平成19年9月29日(土)、10月27日(土)、11月24日(土)

- こぜん じ ふんかん ざいじゅうがいこくじん しゅつえん じこく ぶんか しょうかい  
・午前10時から20分間、在住外国人が出演、自国の文化を紹介した。
- がいこくせき にん  
<外国籍3人>

じっしけっか じっし こうかなど  
3 実施結果(実施の効果等)

かくがい じっしけっか  
<各回の実施結果>

がいこく ともだち なかよ  
「外国のお友達と仲良くなろう！」

がくでんしょうがっこう つうじてほしゅう けっか べる ぼりびあせき にん せいと さんが  
楽田小学校を通じて募集した結果、ペルー、ボリビア籍14人の生徒の参加が

あり、ドンボスコの生徒と合わせて32人の外国籍の子と一緒に、互いに異文化にふれあうことができた。いろんな体験に、料理に、遊びにと、子ども達は盛りだくさんのプログラムを本当に楽しんでいた。また地域のコミュニティの協力で地元住民との交流会も設けることができ、大人も子ども達も盆踊りで、おおいに盛り上がった。

### 「レッツ! アフリカンドラム&ダンス」

会場を変えたことで、楽田地区以外の市民の参加があった。子どもも大人もジャンベの体験に夢中になった。また、アフリカダンスに感動し、いっしょに踊った。ゲストのジャンベチームの家族を通じて、参加者がアメリカの多民族社会を実感できた。

### 「森と遊ぼうIN栗栖・森DEハロウィン」

外国籍の子の参加が少なかった(2人)が、森のなかでオリジナルのハロウィン衣装づくり、ランタンづくりなどを一緒に楽しむことができた。また、オリエンテーションでは、栗栖地域の自然や伝わる民話などに触れることができた。

### 「フロイデまつり：民族衣裳を着て交流しよう」

既存の国際交流イベントに在住外国人が主体的に参加できた。特にバングラディッシュのサイクロン被害に対するチャリティ活動には中高生ボランティアが協力、積極的にふれあいもしていた。約27,000円の募金を集めることができた。

### 「奏でよう! みんなでひとつのハーモニー」

一回目と同じく楽田地区で開催することで参加者が多く、外国籍住民はゴミの分別ゲームに積極的に参加した。また、いろんなジャンルの音楽を皆で楽しむことができ、特にフォルクローレにペルー籍の人が感激し、感謝していた。外国籍住民の中心的存在の4家族が準備段階から一緒に参加し、いっしょにイベントを作り上げることができた。

各回に相談窓口を設けたが、初めて一件の相談があった。

毎月一回、地元のコミュニティ放送に外国人住民が出演し、自国の文化を紹介する予定だったが、土曜日出勤が圧倒的に多く、結果的に3回の実施になってしまった。

## < 全体的な実施効果 >

(1) 犬山市及び近郊の「国際交流」は従来の欧米中心の交流型イベントが多く、地域社会では在住外国人とのつながりがほとんどないのが実情。今回の一連のイベントを「市民に在住外国人と同じ地域住民として意識づけてもらおう一歩」と位置づけた。市広報誌などで参加呼びかけを繰り返したことで、「多文化共生の大切さ」を訴えることができ、参加者の確保にもつながったのでは。またリピーターも多く、子ども達の心は柔らかく、そこから広がる自然な交流の雰囲気、繰り返

返し共有したことで、子どもも大人も「異文化のふれあいの楽しさ、大切さを肌で感じられた」と考える。

(2) 特に楽田地区では町内会の役員、コミュニティ関係者に呼びかけ協力が得られたことで、地元と直結した交流ができ、「地域の課題としての多文化共生の必要性」を再認識してもらうことができた。外国籍の住民が多い県営住宅ではゴミ出し等の問題がでてきているが、問題解決にむかい一緒に取り組んでいける糸口が見つかった。

(3) (特)犬山しみんていの会の下、多くの団体や個人をスタッフに巻き込むことができ、より広いネットワークができた。それがまた、当会の中間支援力を強化させることにもつながりました。

特に通訳・翻訳に日常的に関わる人材を発掘できたことは、今後の活動展開に大きな力となる。また、国際理解系以外の各団体の中でも「多文化共生」の意識が向上した。

(4) 小学校の協力で、在住外国人の子の保護者のキーパーソンが把握でき、回を重ねるにつれ、企画から加わってもらうようになり、「仲間」として活動できるようになった。これが、外国人の公民館使用にもつながり、地域参加の可能性にも。(ペル一人達による自国のお祭り・チャリティ開催等)

(5) 相談窓口を毎回設けたが、最終回で初めて相談を受け、関係機関への紹介をおこなった。

(6) 在住外国人の人と仲良くなることで、かれらの求めていること、必要としていることが把握できやすくなり、今後の支援活動に繋げていくことができる。

#### 4 事業の特質(工夫した点など)

(1) まず地域の子どもの募集は、主に小学校からの案内と犬山子ども大学のネットワークを利用し、参加者を確保した。市の広報誌、地域情報誌を通じて、犬山市、近隣市町の公共施設へチラシ配布。

(2) 各回に保護者や地域の方など、大人も参加できるプログラムを必ず用意し、(料理などを通じての話題づくり・盆おどり等)大人の参加を呼びかけた。

(3) 在住外国人の募集に関しては、住まいのエリアや国ごとに中心となるキーパーソンを探り当て、かれらを通じて参加を呼びかけた。(従来の国際交流では企業等に呼びかけていたが、地域に住む人の確立が低かったので)それがFace to faceの関係づくりにとっても効果的だった。

(4) 在住外国人が多い楽田ふれあいセンターでの〔南米系住民の文化を多く取り入れた〕催しと、それ以外の会場での〔アジア・アフリカや欧米の文化を取り入れた〕催しの差別化で、多文化のプログラムを多く取り入れ、全市や近郊からの参加者も募れるように留意した。

## 多文化共生社会づくり推進事業成果報告会 《(特) 犬山市民活動支援センターの会》

(5) 各事業の中のワークショップ(体験)は、各グループ・団体に任せ、できるだけ多くの団体に参加してもらい、日本文化も含めた多くの文化の体験ができるようにした。

### 5 今後の課題

- \* 楽田地区以外の在住外国人の参加が極端に少なかったため、他の地区での呼びかけがもっと必要。
- \* 外国籍の人は土曜就労がほとんどのため、FM放送参加は3回しか実現できなかった。
- \* このような催しは単年度ではなく、何度も繰り返し行うことが必要と思われるが、財源の確保などが困難なのが実情。犬山国際交流協会などに積極的に働きかけたい。
- \* またこれらの催しを一過性にせず、少しずつでも地道な相談活動(生活・医療・子育て相談等)や学習支援等に繋げていく方向が必要です。